



おでつてさ来ました。南三陸町

「おでつてさ(お手伝いに)来ました」

4月13日(金)午後11時半、新宿駅西口に集合し、「私設支援団体侍」に参加し、宮城県南三陸町に行つて来ました。

参加者は、8名(男性5名女性3名)、車中泊で、14日の朝8時に南三陸ボランティアセンターに到着。新宿を出発した時は雨でしたが、こちらでは曇りで気温は7℃位でした。すでに、北海道や長崎、浜松、長野ナンバーの車等全国各地から多数到着してりました。

南三陸町は 4877世帯、15352人(平成24年3月現在)。東日本大震災により565人の方が亡くなり、そのうち身元不明者は50人います。(2月27日現在)

海岸に押し寄せた津波の高さは、約16m(4階建ての建物の最上階)に達してました。3月11日防災無線を流し続けていた遠藤未希さんが亡くなった町です。南三陸町では土日は300名近く、平日はその6分の1くらいの方達が支援に來られ、今までに約4万人の方々が支援活動をされています。

南三陸ボランティアセンターで登録して活動先の指示を受け、9時半〜15時半の活動となります。他の2団体とともに、

そこから車で30分程行き、仮設住宅がある高台の切曾木での復興の為の農業支援を行いました。

38棟建てられているビニルハウスの土の石拾いです。仮設トイレは一つだけ、手洗いはタンクの水です。水はけが悪く湿地を長靴を履いての作業です。シャベルや熊手で掘り起こすと、大きな石がごろごろと出てきます。小さな瓦の残骸のようなものや色々埋まっています。粘土質で固まったもの多くありました。ミミズは一匹出てきただけでしたが、素人の私から見ても、ここで作物を育てるまでには相当土を耕さなければ難しいのではと感じました。でも、やらないことには前に進めません。

「何も変つてないんだけど」

南三陸の現地リーダーの方は南三陸から50km離れたボランティアで来ています。

「同じ宮城だからね。震度6なんて慣れっこ。ガレキ撤去の搬入を拒む人達のエゴは憤り感じる。」

被災した病院も中はきれいに撤去したのに建物はそのまま残っている

帰り道に通った南三陸町には、人の気配は全くなく被災された建物はそのまま、鳥の鳴き声と潮風の匂いがし



ました。

打ち上げられた船、山の済みの壊れた自動車、建物の上に乗ったままの自動車、基礎しか残っていない平地、海水で枯れてしまった木々、手が付けられていません。

お店は仮設の理髪店1軒見かけました。コンビニは2軒ありましたが、プレハブの仮設です。トイレも仮設で外にありました。

「風化されるのが怖い」

ガレキ撤去はまだまだです。現地での写真を見てこれが、現実なのかと驚かれた方もあります。見えてこないのが現実です。

4月28日〜30日 「釜石青年会議所」が行う釜石現地見学ツアーがあります。

百聞は一見にしかずです。

現地の人と繋がりをもち、直接現在の復興状況を感じてみませんか。

【お問合せ】

Tel 090-2657-0300
Fax (5912) 7780
鬼塚 佳代子

